

第6分科会【地歴・公民】

授業を通じて身に付けさせたい資質・能力とその育成

～共通テストと授業のつながり～

報告者▶ 和田野 紘平（京都市立紫野高等学校企画部教諭）

報告者▶ 吉谷 智美（京都市立堀川高等学校研究部教諭）

コーディネーター▶ 滝本 順之（京都市教育委員会学校指導課指導主事）

新学習指導要領で示された社会的な見方・考え方を生徒が働かせながら授業に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力、判断力、表現力の育成をはかる授業改善は、各教員が学校目標と生徒の現状を踏まえながら、日々努力を重ねている。大学入学共通テストより特徴的な設問を取り上げ分析する中で、高校生が身に付けるべき資質・能力の育成を目指す授業実践例を報告し、授業改善について具体的に議論する。

概 略

冒頭、コーディネーターより本分科会の中心課題を「新学習指導要領が目指す、地歴公民科目の授業を通じて身につけさせたい力の具体化とその育成」と示し、2名の報告者が、新学習指導要領が示す資質・能力を測ることを目指した「大学入学共通テスト」の試行テスト問題（平成29年11月実施）より「求められている力」を確認・分析し、報告者が大事にしている「つけさせたい力」と重ね合わせつつ、その力の育成を期待できる（期待している）授業や日々の取組について実践報告を行うことを紹介した。

和田野氏の報告は、「①大学入学共通テスト（日本史B）から、大学入学後に必要とされる資質・能力を考える」「②高校生段階で地歴公民科の授業を通して「つけたい力」とは」「③「つけたい力」をつけるための実践例」の3つで構成され、①では、全体的に知識・理解の不完全を思考・判断・表現で補完することができる問題が意識的に多いと感じたことから、測ろうとしている資質・能力を「（1）適切な仮説を立て、立証しようとする力」「（2）論理的思考力をもとに、多角的・多面的な考察ができる力」の2つに絞り、②では、それらの資質・能力の育成に関連すると考える「つけたい力」を「構造化（一定の枠組みの中で、因果やつながりを把握し、図示することができる力）」と定義し、③では、「構造化」する力をつける授業実践例を2つ紹介した。「つけたい力」の明確化と、ねらいを絞った授業実践例は意図が非常に伝わりやすく、理解しやすい良い研究、実践報告であった。

吉谷氏の報告は、「①入試問題からの検討」「②世界史の授業での取り組み」の2つで構成され、①では、高校世界史でつけたい資質・能力を、「世界の事象を読み解く力（歴史的な見方・考え方）」から、「将来の世界を構想する力」と捉え、世界史Bの問題より「広い知識、正確な理解」「情報の正確な読み取り」等必要な力を分析し、②では、それらの育成のために毎日の授業で意識すべき点を「（1）歴史の流れを大きく見せる」「（2）個々の知識のカテゴリライズ、マッピングの力」

「(3) 無味乾燥に見える多くの知識」「(4) シンプルに読み解き、シンプルに書く力」の4点に絞り、自身が行なうあらゆる教育活動の具体を、その4点のどれの育成に資するか照らし合わせて整理した。3年間の「歴史」の授業を通じて段階的・総合的に資質・能力の育成を進める教育活動全体を俯瞰する試みは大変興味深く、参加した教員にとって自身の教育活動を振り返る上で大変参考になる実践報告であった。

全体討論の内容

2人の報告を踏まえ、新学習指導要領が示す育成したい資質・能力について確認した上で（スライド①）、「地理歴史科・公民科の授業や取組を通じて身に付けることができると考えている力について具体化し、その力の育成に資する授業実践例や取組が考えられるか」について6つのグループに分かれて研究協議を行った（スライド②）。時間がやや不足したため授業実践例や取組についての提案は少なかったが、地歴公民科目の授業が「多様性の承認（比較の視点）」、「過去の教訓より近現代、未来を予測する」など、現代社会の諸課題に臨む生徒たちに重要な考え方や視点を身に付ける場であることが確認され、「表現力（言語化、対話する力）」、「論理性（知識の分析、一般化、図式化）」、「資料読解力（解釈する力）」、「多角的・多面的に見て、合理的に意思決定する力」など、具体的な資質・能力の向上に資する授業や取組を積極的に検討していくべきであるという、意欲的で活発な意見交流を行うことができた。

■ 研究協議題について

スライド①

新学習指導要領では…

育成したい資質・能力を3つの柱で具体的に示す中で、

生きてはたからせてどう使うか（知識・技能）
社会的な見方・考え方をはたらかせ、
社会に見られる課題解決を構想（思考・判断・表現）
社会参画意識の涵養（学びに向かう力・人間性等）

➡

予測困難な時代
 選挙権年齢、成人年齢引き下げ(2022年)
 積極的に国家・社会の形成に参画
 （育成に資することをめざした、科目の変更）

■ 研究協議題について

スライド②

そこで、ご参加の皆様には…

- ①地理歴史科・公民科の授業や取組を通じて、身に付けることができる（と考えている）力について、具体化してアウトプット（※具体的な場面で、生徒がどう対応できるかを書いてOK）
- ②班内で出た意見について、類似の内容をグループ分け。
- ③グループ分けした内容に対し、どういった授業実践や取組が考えられるかについて交流し、模造紙にまとめる。

到達点と今後の課題

今回、「大学入学共通テスト」を題材として取り上げた背景として、大学入試センター試験などに代表される大学入試において、膨大な知識の暗記を必要とする問題が課され、授業を網羅的に、講義形式中心に進め、知識・理解を優先的に確認せざるを得ないと感じている地理歴史・公民科の教員が多いと推測されることがあげられる。高大接続改革に伴い、入試問題が「思考力・判断力・表現力」を問う形式に変化しつつある状況を共通理解する中で、担当教科・科目の知識伝達に終始せず、新学習指導要領に示されるような資質・能力の育成を重視する教育活動に積極的に取り組んでいくという点についての議論を行えたことは一定の評価ができる。これらの議論で出てきた具体的な「つきたい力」について、新学習指導要領で設定された新科目「歴史総合」「地理総合」「公共」を見据え、授業実践にどのように組み込み、育成を見とり、評価するか、新学習指導要領の本格実施に向け、さらに具体的な意見交流や実践報告が必要になるだろう。



スライド 1

第16回 高大連携教育フォーラム 第2部 分科会6 地歴・公民

1. 本日の流れの説明
2. 実践報告 (25分×2)
3. 研究協議題について
4. 研究協議と報告 (60分)
5. まとめ (5分)

スライド 2

■分科会について

高大接続改革の目的である「学びの接続」を実現するためには、高等学校と大学双方の「対話」が重要である。
大学が、大学教育、大学入学者選抜の在り方を考えていくにあたっては、一人ひとりの若者の資質・能力をどのように評価し、自校の特色ある教育でどのように育成し社会に繋いでいくか、といった観点が必須である。それには高等学校までの学びの把握・理解が欠かせない。また、高等学校も、大学入試への対応だけでなく高等学校までの学びを大学に発信していくことも重要ではないだろうか。こうしたことから、今年度の分科会は、第1部の内容や各校の実践事例等を踏まえた上で、「学びの接続」について、高等学校と大学双方で対話しともに考える機会としたい。(略)。

スライド 3

■分科会テーマについて

授業を通じて身に付けさせたい資質・能力とその育成 ～共通テストと授業のつながり～

新学習指導要領で示された社会的な見方・考え方を生徒が働かせながら授業に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力、判断力、表現力の育成をはかる授業改善は、各教員が学校目標と生徒の現状を踏まえながら、日々努力を重ねている。
大学入学共通テストより特徴的な設問を取り上げ分析する中で、高校生が身に付けるべき資質・能力の育成を目指す授業実践例を報告し、授業改善について具体的に議論する。

スライド 4

■報告内容について

和田野 紘平 先生 (京都市立紫野高等学校教諭・日本史)
吉谷 智美 先生 (京都市立堀川高等学校教諭・世界史)

昨年11月実施の「プレテスト(試行テスト)」より興味深い問題を抽出。「求められている力」を分析、確認。



分析した「求められている力」と、先生方が大事にしている「つけさせたい力」を重ね合わせつつ、その力の育成を期待できる(期待している)授業や日々の取組について、実践報告をお願いしています。

スライド 5

■実践報告

和田野 紘平 先生 (京都市立紫野高等学校教諭・日本史)
吉谷 智美 先生 (京都市立堀川高等学校教諭・世界史)

スライド 6

■研究協議題について

新学習指導要領では…

地理歴史科・公民科共通の柱書が設定

社会的な見方・考え方を働かせ、
課題を追究したり解決したりする活動を通して、
広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に
主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の
有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を
次のとおり育成することを目指す。

※各教科、科目の資質・能力の3つの柱は別紙参照

スライド 7

■ 研究協議題について

新学習指導要領では…

育成したい資質・能力を3つの柱で具体的に示す中で、

生きてはたからせてどう使うか (知識・技能)
社会的な見方・考え方をはたらかせ、
社会に見られる課題解決を構想 (思考・判断・表現)
社会参画意識の涵養 (学びに向かう力・人間性等)



予測困難な時代
選挙権年齢, 成人年齢引き下げ(2022年)
積極的に国家・社会の形成に参画
(育成に資することをめざした, 科目の変更)

スライド 8

■ 研究協議題について

そこで, ご参加の皆様には…

- ①地理歴史科・公民科の授業や取組を通じて, 身に付けることができる(と考えている)力について, 具体化してアウトプット (※具体的な場面で, 生徒がどう対応できるかを書いてOK)
- ②班内で出た意見について, 類似の内容をグループ分け。
- ③グループ分けした内容に対し, どういった授業実践や取組が考えられるかについて交流し, 模造紙にまとめる。

スライド 1

大学入学後に
求められる力をつける実践例
～大学入学共通テストから見る～

京都市立紫野高等学校 教諭 和田野 紘平

スライド 2

流れ

- ①大学入学共通テストから、大学入学後に必要とされる資質・能力を考える。
- ②高校生段階で地歴公民科の授業を通して「つけたい力」とは。
- ③「つけたい力」をつけるための実践例。

スライド 3

- ①大学入学共通テストから、大学入学後に必要とされる資質・能力を考える。

スライド 4

問 2 佐藤さんは、下線部②の制度のもと、大名が、次第に「江戸育ちにて江戸を故郷と思う」(注1)ようになり、「国元にいるよりも、江戸に行くことを楽しみにする」(注2)、「江戸好き」(注3)になっていったという資料があることを知った。この資料を基にして、佐藤さんは次の4つの仮説を立てた。仮説として成り立たないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

(注1)『政談』より (注2)『徳川実紀』より。(注3)『草茅危言』より

- ① 江戸文化に親しんだ生活は、藩邸の出費を増加させ、財政が悪化したのではないか。
- ② 幼少時より江戸住まいが長いので、大名や輦子の交流が盛んになったのではないか。
- ③ 享保の改革の政策である上げ米の制は、大名には喜んで迎えられたのではないか。
- ④ 廃藩置県が実施される際、知藩事であった旧大名は東京集住に大きく抵抗しなかったのではないか。

スライド 5

次第に選挙権を有する人が多くなっていった。

問 5 下線部③に関連して、3人がこのことを証明するために今後調べるべきことがらとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 選挙後の政党の勢力分布が分かるので、第1回帝国議会の議場と議員の様子が描かれている絵画資料を調べる。
- ② 議論の内容から社会的な背景が分かるので、選挙法の改正を審議している議会の議事録を調べる。
- ③ 納税資格と選挙権を持つ人の増減の関係が分かるので、選挙資格を持つ納税者の推移を調べる。
- ④ どのような人々に投票を呼びかけているかが分かるので、衆議院選挙で使われたポスターを調べる。

スライド 6

- ①大学入学共通テストから、大学入学後に必要とされる資質・能力を考える。

- ◆知識・理解
- ◆仮説(問い・課題)を立てる力
- ◆課題を解決しようとする姿勢(仮説を立証)

スライド 7

日米修好通商条約

問 2 下線部①に関して、太郎さんは、条約交渉における幕府の対応について調べた結果、X・Yの二つの異なる評価があることが分かった。X・Yの評価をそれぞれ根拠づける情報をXはa・b、Yはc・dから選ぶ場合、**評価と根拠の組合せ**として適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

評価

X 幕府は西洋諸国との外交経験が不足しており、外国の威圧に屈して、外国の利益を優先した条約を結んだ。

Y 幕府は当時の日本の実情をもとに外交交渉を行い、合理的に判断し、主体的に条約を結んだ。

根拠

スライド 8

評価

X 幕府は西洋諸国との外交経験が不足しており、外国の威圧に屈して、外国の利益を優先した条約を結んだ。

Y 幕府は当時の日本の実情をもとに外交交渉を行い、合理的に判断し、主体的に条約を結んだ。

根拠

a のちに条約を改正することを可能とする条項が盛り込まれていた。

b 日本に税率の決定権がなく、両国が協議して決める協定関税制度を認めた。

c 外国人の居住と商業活動の範囲を制限する居留地を設けた。

d 日米和親条約に引き続き、日本は片務的最恵国待遇を認めた。

① X - a Y - c ② X - a Y - d

スライド 9

問 3 明子さんと太郎さんは、なぜ江戸幕府が滅亡したのかを考えた。その結果、滅亡までの十数年間に、幕府が統治能力を失う重大なできごとがあり、それが幕府滅亡への画期(ターニングポイント)になったとの結論にいたった。明子さんは、年表中の(ア)のできごとを画期ととらえた。太郎さんは、年表中の(イ)のできごとを画期ととらえた。あなたは、どちらの考えを支持するか。支持するできごとと理由を正しく組み合わせよ。できごとは次の①・②のうちから、理由は下の③～④のうちから一つずつ選べ。

桜田門外の変

できごと 20

① 年表中の(ア)のできごと ② 年表中の(イ)のできごと

第二次長州征討

理由 21

① この事件の結果、流通機構が混乱し、幕府の市場統制力が弱まったから。

② この事件の結果、圧倒的な軍勢力を背景とした幕府支配が困難となったから。

スライド 10

るできごとと理由を正しく組み合わせよ。できごとは次の①・②のうちから、理由は下の③～④のうちから一つずつ選べ。

桜田門外の変

できごと 20

① 年表中の(ア)のできごと ② 年表中の(イ)のできごと

第二次長州征討

理由 21

① この事件の結果、流通機構が混乱し、幕府の市場統制力が弱まったから。

② この事件の結果、圧倒的な軍勢力を背景とした幕府支配が困難となったから。

③ この事件の結果、幕府は朝廷への報告を行い、諸大名にも広く意見を述べさせたため、外交を専断できなくなったから。

④ この事件の結果、一部の幕閣による専制政治を進めてきた幕府が、強権で反対派を押さえられなくなったから。

スライド 11

①大学入学共通テストから、大学入学後に必要とされる資質・能力を考える。

- ◆知識・理解
- ◆仮説(問い・課題)を立てる力
- ◆課題を解決しようとする姿勢(仮説を立証)
- ◆多面的・多角的に考察する力(多様な解釈)
- ◆論理的思考力(因果を把握)

スライド 12

知識・理解の不完全を、思考・判断・表現で補完することができる問題が意識的に多い。

『大学入学後に必要とされる資質・能力』

- ①適切な仮説を立て、
立証しようとする力
- ②論理的思考力をもとに、
多角的・多面的な考察ができる。

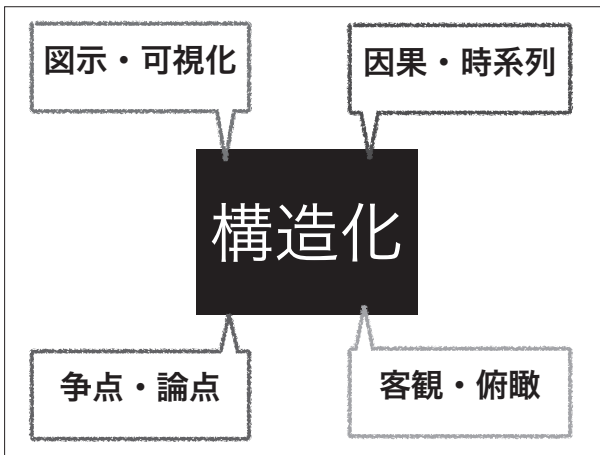
スライド 13

②高校生段階で地歴公民科の授業を通して「つきたい力」とは。

スライド 14

構造化

スライド 15



スライド 16

構造化

一定の枠組みの中で、
因果やつながりを把握し、
図示することができる力

スライド 17

③「つきたい力」をつけるための実践例。

スライド 18

日清戦争後の
国際情勢①

スライド 19

時事新報「日清の戦争は文野の戦争なり」
(1894年7月29日)

日本…文明開化の進歩を謀るもの
文明の誘導者
清 …進歩を妨げんとするもの

ロシアの新聞「ノーヴォエ・ヴレーミヤ」
(1895年4月21日)

ロシアの考え
…黄色人種の文明など認めていない
日本の野心はお笑い草でナンセンス

スライド 20

あ～えに入る国名を考えましょう

	文明	野蛮・未開
史料A 「時事新報」	あ	い
史料B 「ノーヴォエ・ ヴレーミヤ」	う	え

スライド 21

このワークに期待すること

- ①多角的・多面的な考察の糸口をつかむ
(日露間の考えの違い)
- ②日露間に生じる国際秩序観の違いを
図示・可視化することで、因果を把握しやすくなる。

スライド 22

日清戦争後の 国際情勢②

スライド 23

三国干渉

拒否 列国会議に委ねる 受け入れる

あなたが内閣のメンバーなら
どの選択肢を選びますか？

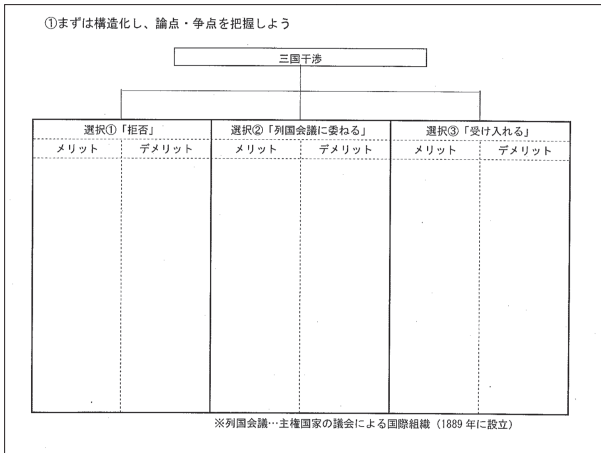
スライド 24

三国干渉

拒否 列国会議に委ねる 受け入れる

メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット
------	-------	------	-------	------	-------

スライド 25



スライド 26

このワークに期待すること

- ①歴史の転換期となる事象について、論理的（判断と理由をとまなう）かつ多角的・多面的に考察することができる。
- ②当時の内閣の迷いを図示・可視化することで、歴史の多様性と判断プロセスを学ぶとともに、事象に対して自分自身の判断を持つことができる。


スライド 27

構造化＝図示・可視化することで、事象そのものを整理するだけでなく、前後の因果や関係性、時系列のつながりを把握することができる。また、これは多角的・多面的な考察においても効果的である。構造化＝図示・可視化することが生徒たちの力として身につけると、大学入学後に必要な資質・能力のベースが備わると考える。

スライド 28

ご静聴ありがとうございました。

スライド 1



Kyoto Municipal
Horikawa
High School

2018.12.8. Sat.
高大連携教育フォーラム
第6分科会「歴史・公民」


授業を通じて身に付けさせたい 資質・能力とその育成 ～共通テストと授業のつながり～

(報告内容)

1. 入試問題からの検討	京都市立堀川高校
2. 世界史の授業での取り組み	吉谷 智美

スライド 2

2 高校世界史でつきたい資質・能力



世界の事象を読み解く力
(歴史的な見方・考え方)


➡

将来の世界を
構想する力

- ・「君たちはどう生きるか」に向き合うときの支え
(社会に参画する当事者意識の醸成)
- ・仮に言語障壁がないとして、生徒は世界中の同世代の青年と何を語り合えるのか?
- ・大学入試問題で問うことのできる資質・能力でもあると考える。

スライド 3

3 大学入試共通テスト(プレテスト) の検討



作成方針 (3)地理歴史 (歴史(世界史B、日本史B))


歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視します。用語に関する知識ではなく、事象の意味や意義、特色や相互の関連等に関する理解が求められます。

教科書等で扱われていない初見の資料についても、そこから得られた情報と授業で学んだ知識を活用しながら、仮説を立てたり、歴史的事象の展開を考察したりすることができるかどうかを問う問題や、時代や地域によらず「歴史の見方」のようなテーマを設定した問題、時間軸を長くとった問題なども含まれます。」

「[大学入学共通テスト]における問題作成の方向性と本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について」大学入試センター、2018年6月18日、p.8

スライド 4

4 大学入試共通テスト(プレテスト) の検討




こんなふう解いてほしい(1)

- ① 個別の事象に関する広い知識、正確な理解や年代の記憶を前提にして答える
- ② 知識・理解を前提に、与えられた情報を正確に読んでとらえ、知識を結びつけて考える
- ③ 授業中、個々の事象の本質について考えた経験を活かし、比較の視点を働かせて答える
- ④ 授業中、異なる地域で同時代に何が起きたかを学んだ経験を活かして答える

スライド 5

5 国公立大学個別試験の問題の検討



東京大学・京都大学

- ・ 一問一答形式の「知識・理解」を問う客観問題を必ず出題
- ・ 大きな見方を問う論述問題を必ず出題している


※「論述」→ 「論」:これからどうするか
「述」:これまでどうだった

大学入試の世界史論述問題は、ほぼ「述」。

将来展望を高校生に問う前に、まずは正確な歴史叙述を要求する姿勢に賛成。

スライド 6

6 国公立大学個別試験の問題の検討



こんなふう解いてほしい(2)

- ① 個々の事象の本質を理解・考察して答える
- ② 学習内容に加え、授業で聞いたエピソードなど、「何に役立つかわからなかったけど取りあえず聞いていたこと」までも参照し活用して答える
- ③ 問題文を正確に読解し、求められていることに対して正確にシンプルに答える
- ④ 出題者がこの問題を通じて何を問おうとしているか、何をさせようとしているか、に向き合う
- ⑤ 日本語の文章として過不足なく論述できる(主語・述語、目的語、補語、時代の表記等)

スライド 7

7 毎日の授業に必要なこと

- (1) 歴史の流れを大きく見る機会を授業で多く導入。
(見方のトレーニングは必要)
- (2) 個々の知識のカテゴリライズ、マッピングの力が必要
- (3) 「無味乾燥」に見える多くの知識が必要
(年代、用語、人名、地図の知識…)
- (4) シンプルに読み解き、シンプルに書く力を伸ばす
(トレーニングは必要)

スライド 8

8 世界史の授業での取り組み

① 歴史の流れを大きく見る機会を授業で多く導入。
(見方のトレーニングは必要)

② 個々の知識のカテゴリライズ、マッピングの力が必要

③ 「無味乾燥」に見える多くの知識が必要
(年代、用語、人名、地図の知識…)

④ シンプルに読み解き、シンプルに書く力を伸ばす
(トレーニングは必要)

① 歴史の流れを大きく見る機会を授業で多く導入。
(見方のトレーニングは必要)

② 個々の知識のカテゴリライズ、マッピングの力が必要

③ 「無味乾燥」に見える多くの知識が必要
(年代、用語、人名、地図の知識…)

④ シンプルに読み解き、シンプルに書く力を伸ばす
(トレーニングは必要)

スライド 9

9 世界史の授業での取り組み

- 定期考査
- まとめプリント
- さまざまな発問

- ロールプレイング
- 廊下のホワイトボードの活用

- 学びに向かう姿勢の涵養
- 環境をととのえるさまざまなこと

スライド 10

10

ありがとうございました。